

不調のリスク 将来も

院長を務めるメンタルクリニックなごみ(福島県相馬市)では、震災が原因となる精神疾患は時間の経過とともに、今のところは減

来す場合がある。

昨年12月に青森県東方沖の地震で福島県沿岸部に津波注意報が出た。震災時の記憶がフラッシュバックして体調を崩す患者が多かった。原発事故で帰還困難区域を何度も変えた人が多く

精神科医

蟻塚 亮二さん

原発事故で帰還困難区域

を何度も変えた人が多く

見えない傷

被災者の心とケア

専門家インタビュー

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故は多くの人の心を深く傷つけた。癒えぬ痛みと、当事者はどう折り合って生きていけばいいのか。社会的な支援の枠組みをどう考えるべきなのか。医療と心のケアの専門家に聞いた。

仙台大体育学部 健康福祉学科教授 氏家 靖浩さん

「心の復興」という言葉には違和感がある。傷つき壊れた心を、建物のように元に戻せと迫られているよ

を受けた人もいれば、何とも思わない人もいる。心のケアを求めているのは、家族を亡くしたり、家や古里を失ったりして、受けた傷が自分にも他人にもはつきり分かる人だけではない。宮城県内で相談を受けた

経験基に組織設置を

原因のようで実は震災当時の出来事が絡む相談があった。「15年になるからもう大丈夫」と簡単に線引きは



うじいえ・やすひろ 1966年、宮城県大崎市生まれ。宮城教育大大学院修了。仙台白百合女子大教授などを経て2020年から現職。医学博士。専門は精神保健。59歳。

災害時に心のケアを担うスタッフの負担は重い。震災では激務でダウンする例があった。被災者の命を守るためにも、対応する自治体職員や心理職を支える仕組みづくりが重要になる。(田柳暁)



ありつか・りょうじ 1947年、福井県あわら市生まれ。弘前大医学部卒。青森県弘前市や那覇市の病院などに勤務し、2013年から現職。78歳。

の不調につながりやす

をいったん閉じたが、知見を基に研究や診療を行う県

東日本大震災 15年

る雰囲気がある。トラウマを心に閉じ込め、PTSDのリスクを抱え続ける人は少なくない。

時間をたつてから心の不調に苦しむケースを防ぐと、21年から参加者同士で被災体験を共有するトークイベントを県内各地で開いている。事故や震災について、少人数でいかに安心して話し合える機会をもっと増やす必要がある。

(松村真一郎)